

大和川付け替え 300 周年記念企画展Ⅲ

つけかえから 300 年

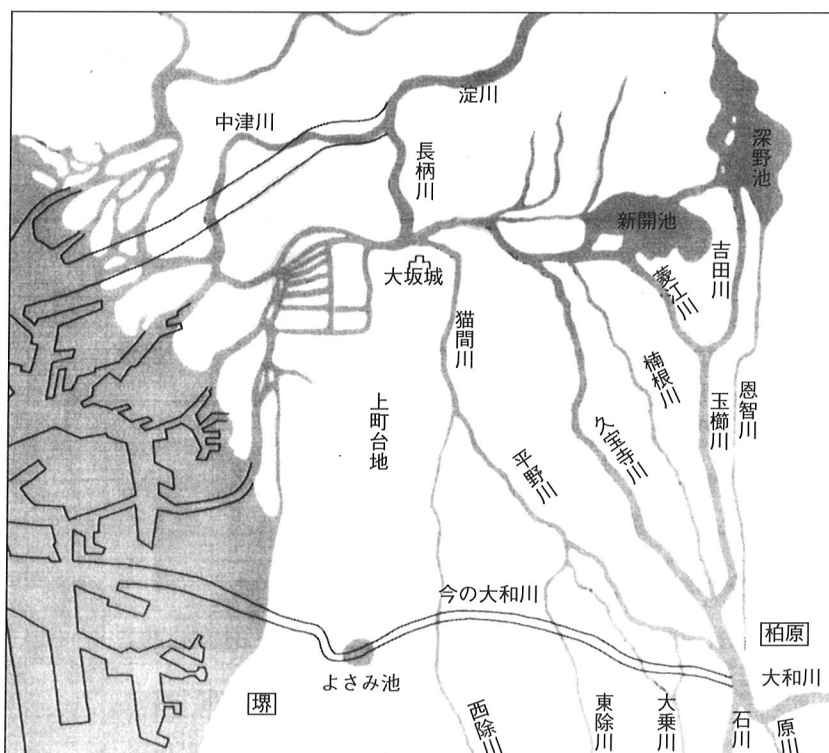
2004 年 9 月 22 日～12 月 5 日

柏原市立歴史資料館

つけかえ前の大和川

柏原市から西に向かって流れている大和川。この大和川は、今から 300 年前に、たいへんな工事によってつけかえられた川なのです。それまでは、何本もの川に分かれて大阪城の近くで淀川に注いでいました。川は水だけでなく、たくさんの土や砂も運んできます。その土は栄養分がいっぱいあるため、田畑を作るのにたいせつな役割をはたします。しかし、それは、洪水を起こすということでもあるのです。洪水によって、たいせつな家や田畑が流されてしまうこともたびたびありました。そこで、洪水の被害を防ぐため、大和川を西へ、海に向かって流れるようにつけかえてほしいという運動がはじまりました。

しかし、つけかえはすぐには実現しませんでした。自分たちの村の近くに新しい川ができるかもしれないと知った人たちが、反対運動に立ち上がったからです。新しい川ができる自分たちの土地が無くなるかもしれない、それまでなかった洪水がおきるようになるかもしれない、などがおもな反対理由です。何度もつけかえが計画され、中止され、つけかえられることに決まるまでに 50 年ほどかかりました。

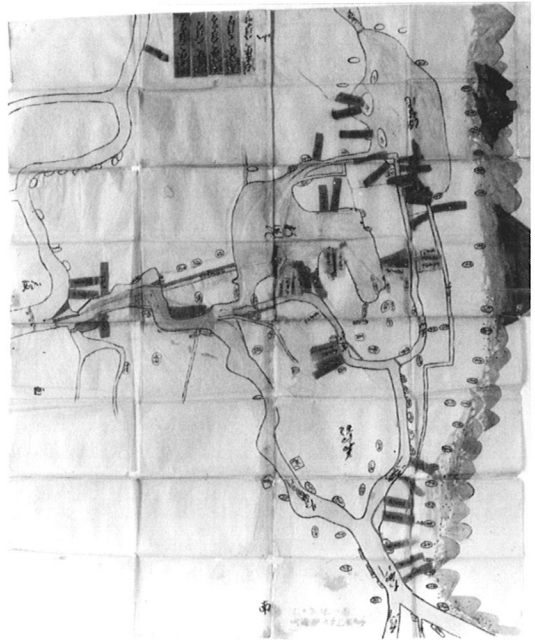


つけかえ前の大和川



かわちのくにえす
河内国絵図 (N-040710)

つけかえ前の大和川の流がよくわかる。大坂城の近くで淀川に合流している。



つみきれしよふせんず
堤切所付箋図 (N-040711)

堤が切れた所に、色を変えて付箋をはっている。深野池や新開池で何度も堤が切れていたことがわかる。



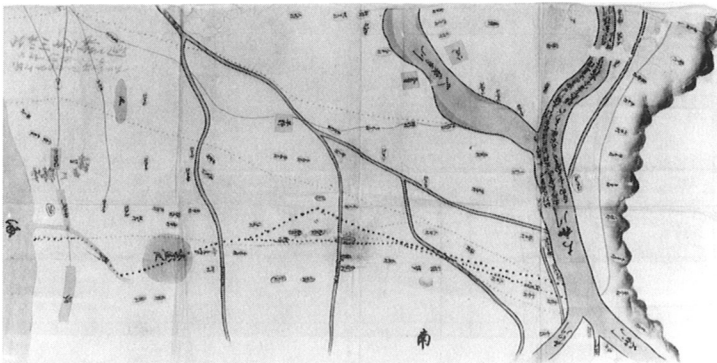
なかじんべえちやくようしかがわじんぼおり
中甚兵衛着用の鹿革陣羽織 (N-040712)

内がわに3種類の字で水と書かれている。



なかじんべえしやうぞうが
中甚兵衛肖像画 (N-040713)

67歳でお坊さんになった後に描かれたもの。



しんかわけいかくかわすじひかくず
新川と計画川筋比較図 (N-040714)

新大和川の位置について、5つの案が示されている。天王寺の近くへ流す案もあったことがわかる。

